

平安時代

鉄づくりを支えた木炭窯



窯のトンネル状の部分は、長さ約6.5m、幅1.7m、高さ1mほどありました。

⑫戸花山遺跡(山元町)

【復興調査】町道建設事業
製鉄の燃料である大量の木炭をつくる窯です。窯は平安時代のもので、向かって左側の窯が崩れたり、右側に新しい窯がつくられました。

新しい窯の作業場(黒色土で広がる部分)は古い窯のものを少し広げて再利用しており、つくる際の手順を省いています。

右側の窯の断面。下のほうには、黒い炭の層が残っていました。



左側の窯では天井が崩れ、右側の窯では天井がトンネル式に残っているのがわかります。



江戸時代 城跡に眠っていた謎の土壘

⑭石森城跡(石巻市)

【復興調査】県道建設事業

戦国大名・島西氏の滅亡後、家臣の石森氏が落ちのびて、屋敷を構えたと伝えられている遺跡です。

調査では、丘陵の尾根で土壘がみつかりました。17世紀頃の陶器が出土しており、江戸時代につくられた土壘とみられます。

近隣には伊達政宗が鹿狩りの際に滞在した「御仮屋」跡があり、土壘はこれに関わる施設だった可能性も考えられます。



土壘から陶器の瓶が出土しました。瀬戸(愛知県)または美濃(岐阜県)の製品です。



調査区の南側(写真左側)に本丸と伝えられている平場があります。

トレンド導入!複雑な堀で鉄壁の守り



調査でみつかった東西方向の堀跡は、長さ約53m、上幅は10~11mで、深さは1.8~2.5mです。



⑯北ノ城跡(仙台市)

伊達政宗が関ヶ原の戦い(1600年)の領に入城し、仙台城の完成まで居城とした城跡です。調査では、大きな空堀跡の底で、複雑な段差や、「障子」(よじろ)とよばれる複数の壁がみつかりました。この「障子堀」は、堀底を敵が自由に移動するのを防ぐ構造で、戦国時代に発達した城の守りを強化する新たな工夫の一つとされています。



北ノ城跡の堀は、一部を断面「V」字型の築堀とするとほか、堀底に様々な方向の障子を設け、段差もつけるなど複雑な構造でした。防御に力を入れた城だったことが分かります。

待たちも駆け抜けた? 登城路を発見



幕末頃の路跡下からは、より古い時期の路面にともなう石畳と黒色の造成土がみつかりました。



⑯史跡仙台城跡(仙台市)

三の丸の南側、巽門から清水門へと向かう登城路の一部を調査しました。

調査では、きれいに整地された路面がみつかり、出土した陶磁器から幕末期のものであることが分かりました。路面の下からは、さらに古い時期の登城路が姿をあらわし、排水のために石組みの溝がともなっていたことが明らかになりました。

令和2年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200箇所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことが私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげ取り組んでおりますが、やむを得ず開発によって姿を消す遺跡については、発掘調査を実施して記録に残しています。

このたび、令和2年度に行なった発掘調査のなかで、特に注目すべき遺跡や東日本大震災の復興事業に伴って調査した遺跡をパネルで紹介します。この機会に遺跡に親しみ、文化財保護への理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快くご協力いただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

時代	年代	日本の主な出来事	パネル番号
旧石器	約800~700万年前 約4万年前	アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる	
縄文	約1万6000年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	① ②③ ④
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる	
古墳	紀元後400年頃	豪族が盛んに古墳を造る	
飛鳥	607年 645年	推古天皇・小野妹子を隋に遣す(遣隋使) 大化の改新	⑤
奈良	710年 724年 752年 760年	平城京(奈良市)に都を移す 多賀城が創建される 東大寺の大仏が完成する 鏡美の反乱で吉備城が火災にあう	⑥
平安	794年 869年 894年 1167年	平安京(京都府)に都を移す 貞観大震災で吉備城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が中止される 平清盛が太政大臣となる	⑦⑧ ⑨⑩ ⑪⑫
鎌倉	1192年 1274~1281年	源頼朝が征夷大将軍になる 又永・波旁の役(元寇)が起る	
室町	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起る	
安土桃山	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城が始まる	
江戸	1603年 1611年	徳川家康が江戸幕府を開く 慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける	⑬
明治	1868年 1876年	明治維新 明治天皇が東北を巡幸する	⑭ ⑮⑯

*印は、東日本大震災の復旧・復興調査

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災の発生から10年が経過しました。震災により甚大な被害を受けた沿岸市町では、土地整理・道路改良・防潮堤建設などの大規模な復興事業や、被災した個人住宅、企業の再建が進められてきました。

こうした復興事業の計画地に遺跡が言われることが多くあります。県では、被災地の一日も早い復興と地域のかけがえのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立に取り組んでいます。

⑯復興事業に伴う発掘調査の進捗状況

復興調査は平成24年度から本格的に開始しましたが、令和2年度までにおおむね終了する見込みとなっています。現在は主にこれまでの成果をまとめた報告書の作成を進めているところです。

事業別	対象遺跡 件数 27	試掘・確認調査						本発掘調査					
		H24~ H28	H29	H30	R1	R2~ H24~ 27	H28	H29	H30	R1	R2~ 計	合計	
住居関連	67	64	1		2					21		21	
道路関連	87	46	10	10	8	9	4	35	4	3	2	2	46
住場関連	113	82	9	13	6	2	1	12		2		14	
漁港関連	40	8	3	17	6	5	1	3	1			4	
堤防関連	15	7	2	2	3	1						1	
その他	1	1										1	
合計	323	208	25	42	22	19	7	71	5	5	3	2	86

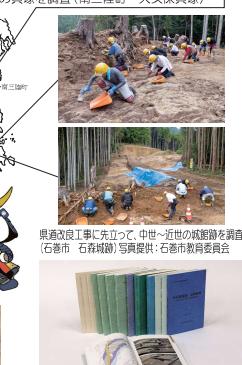
復興事業と係わりがある遺跡数323。

試掘・確認調査を終えて開発による影響が避けられない場合には本発掘調査へ。

本発掘調査86遺跡。(約1/4)

*復興調査の実施にあたっては、從来の発掘調査基準を弹性的に運用し、調査期間の短縮を図っています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)



東日本大震災復興関連遺跡発掘調査の報告書
県教育委員会では昨年度までに11冊刊行しています。
(報告書は全国発掘調査総合情報サイト(<https://slitreports.nabunken.go.jp/ja/>)のWebサイトで閲覧できます。)

縄文時代 集落の周りはゴミ捨て場?

縄文土器や石器がまとまって捨てられた様子。

①山田上ノ台遺跡(仙台市)
名取川左岸の丘の上にある、縄文時代中期末(約4,000年前)頃の集落跡です。これまでに38棟の竪穴建物跡がみつかっています。

集落跡の北西側を調査したところ、壊れた土器や石器のまどまり、焼けた土の広がりなどがみつかりました。

当時の人々は集落跡が集まる住まいの場から離れた場所に、様々な物を捨てていた様子が分かります。

②大久保貝塚(南三陸町)
【復興調査】河川堤防復旧事業
志津川湾に注ぐ水尻川の河口近くにある縄文時代晩期後半(約2,900~2,500年前)の貝塚です。

貝塚を調査したところ、土器や石器、骨角器などの生活道具、当時食べられた様々な貝類や魚骨、歯骨などのほか、土面や土築、石棒などのまどりの道具がみつかりました。

縄文時代の豊かな暮らしと、人々の祈りやまつりの様子を知るための貴重な手がかりとなりました。

骨が語る 狩りや漁の道具の威力

③大久保貝塚(南三陸町)
【復興調査】河川堤防復旧事業
左はマグロの背骨に弓矢が突き刺さったもので、当時の海上における漁の様子を示す遺物です。マグロの頭の方向から背骨に刺されたとみられます。

右はシカの背骨に石鏃が突き刺され、骨と石鏃の両方が砕けています。いずれも狩りや漁の力強さを物語る遺物です。

発掘が終わっても、発見は続く

④大久保貝塚(南三陸町)
【復興調査】河川堤防復旧事業
貝層の中には、貝殻や魚骨、壊れた道具など、形や大きさの異なる様々な遺物が数多く含まれています。

調査ではすべての土を持ち帰り、籠にかけて遺物を探集しました。これらは分類・量計されたのち、もとの形に戻す作業や詳しい分析が行われます。

こうした発掘後の作業は、小さな釣り針やアクセサリーを見つけたり、土器の数や形、食べられていた貝や動物の種類などを調べて、当時の暮らしを解明する大切なプロセスです。

飛鳥時代 役人たちの過密な居住域

⑤長町駅東遺跡(仙台市)
飛鳥~奈良時代(7世紀中頃~8世紀初め頃)の多賀城創建以前の陸奥国府であった郡官衙遺跡の西側に隣接する遺跡です。

遺跡は大溝や柵で囲まれており、これまでに500棟以上の竪穴建物跡がみつかっています。

今年度の調査でも50棟以上の竪穴建物跡が発見されました。官衙(役所)の周囲一般の集落とは異なり、役所に関わる人々が狭い範囲に居住していた様子がわかります。

用語解説 ◆**石鏃**: 石でつくられた矢じりです。◆**貝塚**: 貝殻や壊れた道具などをまとめて捨てていた捨て場です。

◆**国府**: 飛鳥~平安時代、中央政府が全国に設置した国の役所です。政府の任命した役人(国司)が派遣されて政治を行いました。

奈良・平安時代 市街地に埋まる古代の集落

出土したまつりや祈りの儀式で使う土器の仮面や土偶、石棒は、様々な文様が施されています。

⑥源光遺跡(栗原市)
【復興調査】河川堤防復旧事業
築館の市街地が広がる段丘に立地する奈良~平安時代(8世紀前半頃~9世紀前半頃)の集落跡です。

竪穴建物跡15棟のほか、大型のものを含む掘立柱建物跡が3棟、土顎器を焼成した穴などがみつかっています。

掘立柱建物は官衙関連遺跡が多くみつかる施設です。主に竪穴建物で構成される一般集落とは特徴の違う集落が市街地に埋もれています。

方舟にめぐる溝は、古墳時代の墓の施設である可能性があります。

⑦彦右工門橋窯跡(大衡村)
奈良・平安時代(8世紀後半~9世紀前半)に土器や瓦を生産した窯跡です。

調査では、作業場や住居として使われた竪穴建物跡が8軒みつかりました。作業場として使われた竪穴建物の床面では、ロクロを回転させる輪木を据える穴(ロクロピット)がみつかりました。この竪穴建物では、ロクロを使って土器づくりをしていましたことが分かりました。

よくわかる!古代のカマドの構造

中央に並ぶ土器で湯を沸かしたり、米を蒸したりしました。

⑧彦右工門橋窯跡(大衡村)
【復興調査】河川堤防復旧事業
竪穴建物では、残存状況の良いカマドが発見されました。

カマドは、焚口の両脇に逆さまにして据えた胸の長い土顎器の裏(長脣器)を骨格として構築されています。中央部には煮炊きに用いた甕がほぼそのまま横並びの状態で残り、煙突の基礎とした甕もみつかりました。本来は煮炊きに使う土器をカマドの部材に転用した興味深い事例です。

まぼろしの「篤信駅」発見か?

一辺約1mの四角い大きな柱穴がみつかりました。倉庫とみられる掘立柱建物です。

馬場公遺跡
北からみた遺跡。奥の丘上にあります。

⑩馬場台遺跡(白石市)
JR越後線の南西にあり、南北に長い丘陵に立地する奈良~平安時代の遺跡です。

調査では、奈良時代前半の掘立柱建物跡4棟、竪穴建物跡1棟がみつかりました。「馬」の字を含む地名と、方向や柱の筋をそろえた計画的な建物の配置から、駅舎(中央と地方の連絡のために置かれた施設)のひとつ、「篤信駅」ではないかと考えられています。

◆**土師器・須恵器**: 土師器は浅く掘りこぼめた土の中で比較的低温(700~800度)で焼かれた素焼きの土器で、赤褐色をしており、東北地方では内面を黒色処理されるのが特徴です。須恵器も素焼きの土器ですが、密閉度の高い窯により高温(1000度以上)で焼かれ、器面は硬く青灰色をしています。

阿武隈川をのぞむ古代の駅

長辺7.9m、短辺5.3mの規模をもつ掘立柱建物

⑨原遺跡(岩沼市)
【復興調査】河川堤防復旧事業
阿武隈川左岸の自然堤防上に立地する、奈良・平安時代の玉前駅とされる遺跡です。駅家は地方と中央との連絡にあたる使者に馬や食料を提供する施設です。

調査では、駅家の構成施設とみられる大型の掘立柱建物跡がみつかりました。現在も常磐線と阿武隈川が交差するこの場所は、古代にも交通の要所であったと考えられます。

原遺跡から阿武隈川を挟んで南側の丘陵上には、平安時代の官署跡の役所だった三十三間官衙遺跡が立地しています。

古代の最先端技術!鉄づくりの丘

製鉄炉は長方形で、長さ5m、炉に空気を送るための踏み場を作りました。

戸花山遺跡
遺跡は現在の海岸から約1.7km離れています。近くに須恵器を焼いた窯跡もみつかっています。

⑪戸花山遺跡(山元町)
【復興調査】町道建設事業
海を望む南北に細長い丘の上にある、奈良~平安時代の鉄や須恵器の生産にかかる遺跡です。

今回の調査では、海岸から採れる砂鉄から鉄をつくった炉跡と、鉄を加工する鍛冶炉、これらから出た鉄を大量にみつかりました。

働いた人々の住居と工房を兼ねた竪穴建物跡も近くでみつかっており、一連の鉄生産施設の構造が明らかになりました。